

枠を超えた連携による持続的な教育革新

■ これまでの取組状況

教育ビジョンに係る5つの重点戦略の主要施策について、それぞれのマイルストーンの実現に向けて取り組み、その結果、大学間の枠を超えた地域連携・国際協働を強化し、STEAMやDXといった近未来のニーズをも踏まえた分野横断的なカリキュラムを導入しています。また、教学IR(Institutional Research)体制を確立し、入学から卒業「後」まで一貫してデータを活用することで、教育の質を「見える化」し、客観的な根拠に基づいたデータ駆動型の教育改革及び入試制度の改善を実現しています。大学院教育については、学部教育におけるSTEAM教育の取組を拡大し、「横断的共育科目群」を導入しました。分野の垣根を超えた多様な知識を修得することによって、多角的な視点から社会の諸課題を解決できる力を身につけることが可能となりました。学生支援体制については、カウンセラーによる丁寧で専門的な支援の強化に加え、学生自治会との連携を通して、学生の主体的な成長を促しています。さらに、「キャリアセンター」の開設により、学部生から大学院生まで一貫したキャリア形成の支援を実現しています。これらの取組により、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材の育成を進めています。



教育ビジョン
担当副学長
野崎 浩二

01 地域活性化人材育成事業 (SPARC) 教育プログラム

<SPARC教育プログラムの開発・試行>

本学が推進する地域活性化人材育成事業(以下、「SPARC」)では、well-beingの考え方にに基づき、デジタル技術者と協力してDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、人や地域(まち・文化・教育)の課題解決に貢献できる人材を「文系DX人材」と定義しています。この「文系DX人材」を育成するため、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の国公立3大学が連携し、右図の連携開設科目を含むSPARC教育プログラムを開発・実施しています。令和6年度は、山口大学53名、山口県立大学195名、山口学芸大学7名、合計255名の学生が履修しました。今後も本プログラムを通じて、地域の教育連携を強化していきます。

連携開設科目(11科目)	提供大学	受講大学	実施済・実施中					実施予定
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
DX概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
地域学	県立大	山口大・県立大・学芸大						
データ科学と社会Ⅰ	山口大	山口大・学芸大						
データ科学と社会Ⅱ	山口大	山口大・県立大・学芸大						
データ科学のための基礎数学	山口大	山口大・県立大・学芸大						
知的財産入門	山口大	山口大・県立大・学芸大						
統計学概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
人工知能概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
地域文化論	県立大	山口大・県立大						
デザイン思考論	県立大	山口大・県立大						
コミュニティデザイン論	県立大	山口大・県立大						

<ひと・まち未来共創学環の設置>

本学ではSPARC教育プログラムを活用した分野横断的な教育の開発・展開には、人間科学系リソースの再配置と一部理系学部の連携が必要で、新しい教育課程の設置も重要であると考え、令和7年度に「ひと・まち未来共創学環」を設置しました。



02 海外大学と連携した共創教育プログラムの実施

本学では、多様化する社会で価値を創造し、社会を切り拓く人材を育成するには、文化も背景も異なる様々な国籍の学生が融合し、チームを組み活動することが重要であると考えています。この考えに基づき、海外の大学と連携し、学生が国際合同チームを編成して対面・オンラインを組み合わせた「共創教育プログラム」を実施しています。この取組は、本学学生と海外学生が多様な価値観に触れ、互いに切磋琢磨することで、国際的な視野を持つ人材の育成を目指すものです。

- (1)工学部 「Summer Program for Innovative Engineering Design(SPIED)」
- (2)医学部保健学科 「アジア・太平洋地域における看護・健康科学のリーダー育成を目指した国際連携事業(APAHL)」
- (3)共同獣医学部 「One Health問題の解決に向けた獣医師育成プログラム」
- (4)農学部 「熱帯性環境生物資源国際ネットワークを用いた情報科学プログラム」
- (5)工学部 「北アリゾナ大学との学際的グローバル・プログラム」
- (6)人文学部 「東呉大学との海外研修」

今後は、既存の国際交流協定を活用したものに加え、新規プログラムの創設を進め、全学的な協力体制のもと、多彩な教育・研究活動を海外展開に繋げることで、国際的視野を持つ人材育成を一層推進していきます。



03 教学IRの推進と実践

本学では、令和2年度から教学マネジメント室を設置し、教育改善のためのFD研修会の実施や教学IRの活用、教育の内部質保証に関する取組を行っています。

教学マネジメント室では、教学IRを推進するため、在学生調査、卒業時調査、卒業生調査、企業向け調査等を実施し、教育改善に必要なデータ収集を行っています。経験や勘に頼るのではなく、客観的なデータに基づいて教育の質を向上させる仕組みを構築するために、これらのデータを活用し、教育改善を推進しています。

収集されたデータを使用し、令和6年度には、山口大学の9学部全てに対し、教学マネジメント室の教員が、各学部の個別データに基づく教育改善FD研修会を実施しました。この場では、これらのデータを基に、学生の現状とこれから改善が必要なことについて、共同で意見交換を行いました。また、教育改善を考えるきっかけとして、「データを元に山口大学の教育改善を考える」をテーマに、教学IRポスターを作成し、教職員等に周知しています。さらに、教育の内部質保証に関する取組として、令和6年度には、全学部でのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直し、アセスメントプランの作成を主導しました。これにより、教学改善のPDCAサイクルの仕組みづくりに着手し、本学の教育活動の充実・発展に寄与しました。



▲ 教育改善FD研修会の様子



▲ 教学IRポスター